

# 服部四郎博士追悼特集号を編むにあたって

比嘉, 実

---

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

20

(発行年 / Year)

1996-02-26

## 服部四郎博士追悼特集号を編むにあたって

激動と憂愁と悲慘な事件に彩られた1995年が過ぎ去りました。数年来、灰色に、重く、冷たい雲に閉ざされた日本の社会に、今年こそ暖かく、柔らかな春の日差しが差し込んでほしいものです。それにしましても時のうつろいの早さを思います。一昨年は所員の中本正智先生、去年は客員所員の服部四郎先生、仲宗根政善先生が他界されました。客員所員の両先生は本研究所の開所以来、研究所の発展にご尽力くださいました。

日本学士院会員、文化勲章受章者、東京大学名誉教授（言語学）、東京言語研究所運営委員長でありました服部四郎博士は、昨年1月29日、藤沢市の湘南長寿園病院において肺炎のために永眠いたしました。早いものでもうすぐ一周忌になります。ささやかではありますが、先生の霊前に本書を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げたいと思います。

先生は1908年（明治41年）、三重県鈴鹿郡亀山町にお生まれになり、1931年東京帝国大学文学部言語学科を卒業、1933年から1936年までご専門の満州語研究のために旧満州に留学しておられます。帰国の年に東京帝国大学文学部講師に就任され、1942年に助教授、1949年教授に昇格されております。1966年、東京言語研究所運営委員長になり、お亡くなりになる日までその職にありました。1969年、東京大学を定年で退官し東京大学の名誉教授になり、1971年文化功労者として顕彰され、1972年に日本学士院会員に推挙、1978年勲二等旭日重光章を受賞、1979年日本放送協会放送文化賞を受賞、1983年には文化勲章を受章しておられます。

先生には多くの研究業績がありますが主要著書として『アクセントと方言』明治書院（1933年刊）、『元朝秘史の蒙古語を表す漢字の研究』文求堂（1946年刊）、『音声学』岩波書店（1951年刊）、『音韻論と正書法』研究社（1951年）、『世界言語概説 下巻』（市河三喜博士と共編）研究社（1955年）、『日本語の系統』岩波書店（1959年刊）、『言語学の方法』岩波書店（1960年刊）、『アイヌ語方言辞典』（編）岩波書店（1964年刊）、『英語基礎語彙の研究』三省堂（1968年刊）、『音声学—録音カセットテープ、同テキスト付』岩波書店（1983年刊）、『服部四郎論文集 アルタイ諸言語の研究』三省堂（1986年～）などがあります。

先生には本研究所開所以来、客員所員として研究所の精神的支えとしてお力添えをいただき、那覇市で行われた沖縄文化研究所創設6周年記念講演会では「琉球語源辞典の構想」と題する記念講演をしていただきました。それに『琉球の方言』を刊行するたびに丁寧にお便りをいただきました。『琉球の方言』で追悼特集号を編むのが先生にふさわしいと考えました。

執筆のみなさまには、ご多忙にもかかわらず、服部先生の追悼特集号にご執筆いただき感

謝しています。わたしとしては論文編のほかに、追悼文も収録したいと考えて、歴代所長を代表して、特に関係の深かった外間守善先生にも追悼文をお願いしていて、ご寄稿いただくことになっていましたが、ご多忙のためにいただくことができなかったことは残念でありました。早田輝洋さん、山本茂男さんには本特集号の編纂にあたり、適切なお助言をいただきました。記して感謝のしるしとさせていただきます。

1996年2月10日

法政大学沖縄文化研究所

所長 比嘉 実